

三年学年だより

No. 10

1 月号

令和6年12月 発行

308HR

人との出会い

三十数年前、皆さんと同じ受験生だった。理系男子クラスで、物理と化学選択だったものの、理系教科はてんでダメ。文理選択時に、今は亡き父が農学部を推していたので、まあなんとなく理系を選んでしまった。分からぬ数学や理科に苦しんだ甲斐もなく、センター試験（現共通テスト）はもの見事に大失敗。2次試験の配点比率が高いO大学を受験したものの当然不合格。ならば後期試験こそはとK大学を受験。逆転の手ごたえはありありで、スーパーファミコンを買ってフェリーに乗り込んだ記憶がある。当時はインターネットやスマホなどあるわけもなく、自宅の電話で合格発表を聞いた。いよいよ自分の受験番号のはずが、読み上げられることはなかった。結局、滑り止めで合格していたG大学に進学。入学式後に初めてしゃべったY君（名前は忘れた）の一言が衝撃だった。「俺、ボクシングで入学したんよ。勉強なんかどうでもいいんよ。」どこの大学であれ、英語を勉強して、将来教員を目指していた私にとって「こんなんと4年間過ごすんか。」と意気消沈した。大阪で家賃8千円の下宿先である青雲荘（トイレ・風呂・台所共同、4畳半の部屋）に戻ると、母親から電話が入った。「K大学から補欠合格の連絡がきたけどどうする?」「行く」の一択だった。その日のうちに新幹線で九州に向かい、数日後、その年2回目となる入学式を経て、充実の4年間を過ごした。今考えると、G大学の入学式は当然4月、補欠合格が来たのは4月に入ってからのということになる。受験は3月末までではなかったということか。稀有な経験をさせてもらった。

さて、日本は狭いもので、いつどこでかは忘れたが、彼女連れのY君とばったり再会したことがあった。「永井君、なんで消えたん? みんな、いろんなうわさしよったで。」と言われ、「君のせいですよ。」と心の中でつぶやいた。一方で、「永井君」と名前を覚えてくれていたことに、何も告げずにG大学を去ったことを少しだけ申し訳なく思った。G大学もさぞかし慌てただろうし、私の両親には退学や下宿の手続等、すさまじい負担をかけたことだろう。当然G大学の入学金や前期の授業料も無駄にさせてしまった。まもなく52歳を迎えようとしているが、その分の親孝行はできているであろうか。Y君に出会っていなかったら、今の自分はようになっていただろう。変わらずしがない英語教員になっていたと思うが。

受験を終え4月から新生活を迎える3年生のみなさん。中央卒業生だけでつまず、新しい人との出会いを大切に。ちなみに来年1月24日（金）はボクシング世界4団体統一チャンピオン、井上尚弥選手の防衛戦だ。私はボクシングの大ファンである。誤解なきよう。（308HR担任）

“大丈夫” !!

この言葉は、松山商業高校から松山大学を経て、三井住友海上陸上競技部で日本の女子マラソン界を牽引してきた松山市北条出身の土佐礼子さんが、高校の後輩たちに送ってくださった言葉です。現在は、愛媛マラソンのスペシャルサポーターとしても活躍されています。土佐さんは、2度のオリンピックと世界陸上に日本代表として出場し、世界陸上ではエドモント大会で銀メダル、大阪大会で銅メダルを獲得しました。非常に粘り強い走り、多くの人を感動の渦に巻き込みました。そんな土佐さんが、高校駅伝に臨む後輩たちのために、この言葉を襷（たすき）に書き記していただきました。私も、この言葉にとっても感銘を受け、今も大切にしています。

進路実現のために、今も不安を抱きながら頑張っている人も多くいると思います。しかし、自分の目標を達成するために重ねた努力は、必ず報われるときが来ます。自分の力を信じ、ここまで支えてきてくださった保護者や先生方の激励に感謝しながら、迷うことなく一歩ずつ前に進んでください。めざすゴールは必ず見えてきます。しっかり駆けていってください。・・・“大丈夫” !!

（308HR副担任）